

平成24年3月17日(土) 被災地研修ツアー 福島県いわき市スパリゾートハワイアンズ

INDEX

被災地研修ツアー	1~2
春の宴 / 例会報告	2
会員企業訪問・リトルハウス様	3
特別寄稿 磯みつわ 尾形文貴氏	4
会員異動・スケジュール	4



被災地の現状を話された、講師の高橋美加子さん



出発に当たって今回の研修を企画した御園研修委員長から当日のスケジュールが発表された。



現地報告に涙し、フラの熱気に汗した充実の一日

3月17日(土)は朝から小雨。せっかくのツアーなのにという気もしましたが、今回は何といても研修ツアーなのです。総勢39名が勢ぞろいしたところで、お見送りの臼井先生、小川市議会議長から「ちゃんと勉強してきて！」と激励を受け、7時に出発。

バスが動き出すと、先の「20周年記念祝賀会」で上映された、内藤太会員の力作「月星20年のあゆみ」がながれました。今回は、臼井久美子夫人が友人を多くお誘いいただきましたが、その方々にも楽しんでいただけたようでした。

10時40分、予定より20分遅れて福島県いわき市のスパリゾート・ハワイアンズに到着。早速、南相馬市から数時間かけてお出かけ頂いた高橋美加さんのお話を伺いました。高橋さんはご自身で(株)北洋舎クリーニングを経営され、

福島県中小企業家同友会の相双地区会長もなさっています。

昨年の大震災後に、会社のホームページで「南相馬からの便り」を発信したところ、全国から大反響があり、一躍、「福島ジャンヌダルク」と呼ばれるようになったそうです。ぜひ皆さんも、「南相馬からの便り」をお読み下さい。

今回、高橋さんのお話を伺う機会は、前研修委員長小野成子さんのご紹介により実現しました。講演時間は1時間30分で、後半の30分は質問タイムにと打ち合わせたのですが、時間目一杯、まさに一気という感じで話して下さいました。「何が起こったのか?」「現在おかれている状況は…」「そして、これから…」と話はずきません。

南相馬市は大震災時の人口およそ71,000人で、地震、津波で亡くなった方が約900人。しかし、本当の恐怖は、放射能防護服に身を包んだ人達に、行き先も告げられず、バスに乗り込まされたところから始まったと言います。3月8日現在で、市の人口は43,000人となり、テレビで放射能の報道をすればするほど避難者が増えたそうです。色もなく、匂いもなく、目に見えない放射能にはまったく対応できない。物理的な損壊は、復旧・復興の目途が立ちやすいが、放射能による避難はいつ自宅に帰れるのかわからないという大きなストレスを住民に与えています。

「ふるさとは私の血と肉」と思う市民一人ひとりが、これからどう生きるべきかと考え、まるで哲学者のようになっているそうです。「どうか、私たちのことを忘れないで下さい」「忘れられることは、原発事故がなかったことになってしまいます」と高橋さんは、我々に訴えました。講演の最後に、南相馬の障害施設で作った「つながり∞ふくしま」の缶バッジを隣同士で付け合いました。

昼食の後は、フラガールの絆ステージ。土曜日とあって

満員の観客席は熱気でムンムン。Tシャツに水着姿の人達の脇で、冬装備の我々は大汗流して観賞。

2時40分、スバリゾートを後にし、いわき市沿岸部の村ごと津波でやられてしまった被災地を回る。そして、小雨の中、美空ひばり「みだれ髪」の歌碑と写真撮影。お酒の入ってきたところで、今回は難しかったと不評だったクイズ。今回はぐっと砕けてフラガールのおへそ形を問うような良問の連続。22個の景品が配られたところで、恒例のカラオケ大会。山本相談役の締めのご挨拶まで歌いに歌い、あっという間に3時間が過ぎ、予定より30分遅れて千葉に到着。

高橋さんのお話には、皆さん涙を流して聞いていました。フラのステージでは汗を流し、被災地では胸を詰まらせ、カラオケで声を張り上げ、まさに全身で勉強してきた一日でした。（御園研修委員長）



春の宴

平成24年4月15日 殿山ガーデン

桜吹雪につつまれて

4月15日、殿山ガーデンにて春の宴(お花見会)が開催されました。前日夜半までの雨で心配されましたが、当日はよい天気にもまれ、46名と多くの参加を頂き大変盛り上がりしました。今年は桜の開花が遅れましたが、さすがに4月15日になると桜も散って花吹雪状態。かえって風情がありました。

参加者はバーベキューを頂きながらアルコールも存分に飲み干し皆上機嫌、子どもたちも穴倉さんよりプレゼントされたおもちゃ(竹とんぼ)等で喜んでいました。日頃の疲れを癒す最上の午後のひとときとなりました。

(文責：産方 恒好)



定例朝食会報告

第2土曜日 午前7時開会 ホテルグリーン・タワー幕張

3月からは通常の朝食例会で、会員による卓話を行います。3月はグリーンタワーの林昇志社主に、4月は臼井先生に、今年度最後の5月は徳永康子所長にお願い致しました。また、5月例会では昨年同様に出席者にはカーネーションをお渡ししました。1年間ご協力いただき誠にありがとうございました。（阿佐一郎例会委員長）



3月例会 ↑卓話の林昇志
ホテルグリーンタワー社主
加藤会長からお誕生祝い⇒



4月例会 ↑卓話の臼井日出男
先生
臼井先生からお誕生祝い⇒



5月例会 ↑卓話の徳永
社労士事務所所長
臼井先生とお誕生祝い⇒

第9回 リトルハウス(株)

仕事を楽しむ 女性だけのクリエイティブ集団

始まりは、一見で来た地元高校生の相談から

女性ならではの魅力

武田峰子さん率いるリトルハウスは、女性だけで“楽しみながら”お客様のオリジナルウエアを作るクリエイティブ集団である。

現在、正社員は4名、パート従業員2名という少人数であるが、少人数ゆえに女性ならではの「みんなの知恵」がウエアのデザインなどに反映され、顧客にとっての魅力を生み出している。

社長の武田さんはこう言う。

「女性というのは、家に居るときは子どもの母親であり、夫の妻であり、そして主婦という役割を果たしているわけですが、ここに居るときは仕事をする一人の女性、一個人格として認められた立場になります。それが心地よい面があって喜々として仕事をするのです。パートさんでも責任感が強く、自分の意思で遅くまで残業するケースも少なくありません」

リトルハウスが作るオリジナルウエアとは、たとえば高校や大学のクラスやサークルが文化祭等の機会にお揃いで着るTシャツやポロシャツなどである。

既製品を選んでもらうわけではないので、プリントや刺繍、ワッペンイメージや細かいデザインなど、お客様の好みや考えをよく吸い上げなければならない。

このヒヤリングをフェイス・ツウ・フェイスで行うこともあれば、電話でやりとりすることもある。

電話での対応は、武田さんが「うちは電話で商売している」と強調するほど大事にしている場面なのだが、電話によるヒヤリングは細部にわたって丁寧に行わなければならないので必然的に長電話になるらしい。このあたりの対応が男性にはむずかしいのだ武田さんは言う。

お客様の意向をこと細かく聞いた上で、「こうしたらいかがでしょうか」と、意向にフィットしたウエアを提案していくのが同社の仕事であるが、ここには「粘り強く意向を引き出し、確認する」というプロセスが不可欠なのだ。その粘り強さが男性にはないらしい。

女性に向いている仕事、あるいは女性だからこそうまくいく仕事を女性だけで担う。これが、みんなが喜々として仕事を続けている根本的な要因なのであろう。

地元高校生の相談をじっくり聞いて…

武田さんがシルクプリントによるTシャツを始めたのは、2000年のことである。それまでは、ホームページ制作を自宅で請け負っていた。当時、IT産業に普及した「SOHO」(Small Office / Home



Office)である。

ホームページ制作はデザイン力が勝負となる。武田さんはわざわざデザイン学校に通って総合的なデザイン力を磨いた。このデザイン学校時代に、学友からたまたまシルクプリントを行っている会社を紹介され、「私にもできそうだ」と自分でシルクプリントの受注を始めてみたのが、現在のリトルハウスのスタートである。

はじめはSOHOの延長で、ネットショップのみの営業だったが、お客様との打ち合わせが多くなったため、幕張に小さな事務所を借り、「Tシャツプリント・オリジナルウエア」といった看板も出した。

「周囲に高校があるし、もしかしたら学校からの需要もあるのではないかとちょっとした期待もありました」

看板を見て最初に訪ねてくれたお客様は老夫婦だった。「孫が描いた絵をTシャツにプリントしてほしい」という要望だった。

わずか4点4枚のオーダーで、合計1万円程度の仕事ではあったが、武田さんにとって嬉しい第1号の一見客だった。武田さんは今でも画用紙に描かれたお孫さんの絵4枚を大事に保管し、私たちにを見せてくれた。

しかし、残念ながらそのあとは続かない。相変わらずネットショップに頼りながら「何とかしなきゃ」と思っていたところに、高校生2人が突然訪ねてきた。幕張総合高校の男子生徒と女子生徒だった。

聞けば、「文化祭のイベントにクラス全員で揃いのTシャツを着たい」とのこと。武田さんは喜んで二人の意向を確認し始めたのだが、生徒2人の考えが折り合わず、そのうちケンカまで始めたのだ。

ここで武田さんが「じゃあ、話がまとまってからまた来て」などと突き放していたら、今日のリトルハウスはなかったかもしれない。武田さんは逆に、ケンカ腰の二人の会話に入っていく、気がつけば3人で一緒に悩み、一緒にTシャツを考える状態になっていた。

「途中、なんだか悩み相談室みたいになりまして……」

相当の時間がかかったようだが、最後は“商談”もまとまり、やがてできあがったTシャツを見て2人は小躍りして喜んでくれた。

この“高校生悩み相談”こそが、女性集団によるオリジナルウエア製作の原点にほかならない。その後、リトルハウスは学校の文化祭をターゲットに、県内のみならず全国にダイレクトメールを送って受注を獲得。さらに企業や一般消費者に客層を広げ、今日の礎を築いていったのである。

こうした話を飾ることなく、銜うことなく淡々と話してくれる武田さんに懐の深さを感じた。あの時の高校生2人も、そんな武田さんに安堵していたのかもしれない。

(取材・文/奥平。次回は武田さんの紹介で(株)アイエスエイを予定しています)

大震災1年後に思うこと

（株）みつわ 尾形文貴

昨年3月11日の東北地方を襲った大震災は、遠く離れた千葉県にもその傷跡を残していきました。当社付近の液状化は、もともと海を埋め立てた工業地帯なので深刻な状況でした。

当日は幕張方面で営業活動中でしたが、その瞬間ビルに大きな横揺れが長く続いたものですから、周囲の人と一緒に押出されるようにしてビルの外に出て行きました。

おもてに出てみると歩道と舗装道路の間の縁石がずれているし、歩道からは黒い砂が混じった海水と思われる液体が溢れ、辺り一面黒い液体が車のタイヤの3分の1位まで浸水している状態でした。

電話が通じなかったため、私は急ぎ会社に戻り状況確認をしようと幕張から会社に向かって車を走らせました。途中の道路は波打ち、いたるところに黒い水たまりが出来、ブロック塀は倒れ、電信柱は傾き、社屋の基礎には大きな隙間が出来ていて大変な事が起きたと直感しました。

道路に亀裂が入り、車では会社には近づける状況ではなかったため、近くの路上に駐車するしかありませんでした。会社に到着してみると既に社員には帰宅指示が出された後で、電話が通じない営業社員が帰って来るまでの間、心配で会社に待機していました。運の良かった事に全社員及び社員の家族とも何もなく、無事である事が分かり、安心したような次第でした。

社屋は1か所、壁に大きな亀裂が入り、パソコンが1台落下、3~4mもあるコピー機が50センチ位移動……と原状復帰の出来る範囲で被害としてはさほどありませんでした。ただ、道路が陥没し歩道が隆起した関係上、駐車場入り口の段差が酷くあり、入庫庫に支障をきたしました（すぐにドリルで削りなだらかにしましたが…）。

あれから1年、今の印刷業界を取り巻く環境においては、印刷関連資材や諸物価の高騰、また原発事故の影響による節電や経済活動の悪化で起こる倒産や廃業、内需の落ち込みなど不安材料ばかりです。

そんな時、これから自社を守るために自分たちで何をすればよいのか？

私の中では、これという答えはなく、今出来る身の周りの小さなことから、根気よく出来るもの順に自社を変えていくことが大切な事だと思います。こんな時でなければ出来ない事があるはずで。

命を落としたり避難所生活を強いられている被災者の方々と比べれば、贅沢な事を言えるだけでも幸せな事と考えなければなりません。

会員異動 新入会



伴 英二
昭和22年5月23日生

血液型 B型 紹介者 川名利夫
事業所名 東新橋税理士合同事務所
役職 税理士
所在地 〒105-0021 東京都港区東新橋2-5-14
新橋山根ビル2F

TEL.03-3437-0678 FAX.03-3435-1181

携帯電話 080-5447-6536 e-mail: e.d.2326@jcom.ne.jp

主力事業内容: 税務相談・申告

趣味: ゴルフ・野球・水泳・スポーツ観戦 家族: 妻・長女・長男

代表者変更



ヤマダ アツシ
山田淳史
昭和54年3月14日生

血液型 B型 山田善郎氏逝去により

事業所名 株式会社 山田工務所
役職 代表取締役社長
所在地 〒260-0833 千葉市中央区稲荷町1-3-1
TEL.043-261-4151 FAX.043-268-0007
http://www.yamada-koumusho.com/

e-mail: yamada-a@yamada-koumusho.com

主力事業内容: 総合建設業 趣味: 映画鑑賞 家族: 妻

6月のスケジュール

6/2(土)	平成24年度定時総会 18:00開会 会場: ホテルグリーンタワー幕張
6/6(水)	役員会 18:00開会 プラザ菜の花
6/13(土)	定例夕食会 19:00開会 参加費 3,000円 会場: ホテルグリーンタワー幕張

事務所住所変更

益子武雄氏 益子行政書士・労務管理事務所
〒262-0012 千葉市花見川区千種町171-1
TEL.043-239-5620 FAX.043-239-5621

齋 吓名氏 (有) ユーフーズ
〒261-0002 千葉市美浜区新港122
TEL&FAX. 050-1169-6180

退会

中臺岩男氏 有限会社田川肉店 代表取締役 理由私事

中台周一氏 幕張商事株式会社 代表取締役 理由私事

広報委員長として、最後の会報をお届けします。2年間、会員の皆さまにはご満足いただけたかどうか自信はまったくありませんが、内藤さんや奥平さんのおかげで会報づくりを存分に楽しむことができました。もちろん、無事に予定通り発行できたのは、ご多忙の中、快くご寄稿いただいた会員の皆様のおかげです。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

2年間の会報づくりの中で、最も印象に残っているのは会員企業訪問です。取材にはすべて同行させていただきました。奥平さんの取材ぶりや原稿の作り方に感心する一方、会員企業の皆さんは例外なく企業としての「オリジナリティ」と「強み」を持っていること、また創業から今日に至るまでにはそれぞれに、人知れぬ奥深い心のストーリーがあることも実感しました。感激しました。素直に、勉強になりました。この記事が次回以降も末長く続くことを願ってやみません。 (産方)